

杉を見に行き、ついに大イタヤカエデにめぐり会うことができました。〇〇指定が早急に実現されますよう望んでいます。(今年の大雪にも負けずに健在です。)

先生の思い出その2。「美声」

音楽にとっても詳しいとお聞きしておりましたが、清水峠での美しいお声に本当に疲れ(?)も忘れ……。

(昭和65年3月24日消印)

尾崎先生の思い出

荘 司 宏 明

先生に初めて逢ったのは、83年10月30日与板十成山での採集会でした。会員になってまだ日の浅い私にとって、採集会というものは植物の名前を覚えることと同時に、じねんじょ会会員の方の名前も覚え、さらに各氏の生態行動を詳細に観察するという意味で、非常に重要な行事であると考えております。

その日は、あいにくと、冬將軍の到来を予告するかのような、北風が強い日でした。八坂神社きわの坂道を登って行くうちに、ふと、前に行く巻脚半姿の人に目がとまり、同行のS氏に「あの方は？」と聞いたところ「ああ、彼がじねんじょ会の御家老、尾崎先生ですよ」と教えられた。私はその姿に、なにか珍しいものでも見る思いでしばし見とれました。特に興味を感じたのは、その脚半の巻き方で、ちょうどコバンソウの小穂を連想させる形に見えて、印象的でした。足を保護するためか、それともファッションのつもりで巻いていたのか、定かではありませんが、いずれにせよ、大切な足に対する気配りというものを感しました。昼食後の勉強会、先生は「新潟市植物資料室概論」について講義されました。しかし、なにしろ、肌寒い日であったため、西山氏差し入れの教材に、つつい手が出てしまい、話の半分は気化してしまいました。

(晩秋の一日、83年最後の採集会の思い出)。

今年も河渡周辺の空き地には、コバンソウがたくさん咲いております。コバンソウの小穂を見つめ、巻き脚半を連想、そして尾崎先生の姿を思い出すごころです。

(昭和60年5月13日消印)

思い出すままに

渡 辺 正 之

大学生の時、米山の採集会に参加しました。山頂の小屋に着いたのが夕方薄暗くなってからです。早速、カレーライスをつくることになりました。野菜の皮をむき、適当な

大きさにきざんでから煮るのが普通の手順です。ところがなぜか、タマネギをきざむのが面倒になり、最後の一つは皮をむいただけで、丸ごとコッフェルに放り込んでしまいました。

かくして夕食の準備が完了。アルコールと共に楽しい食事になりました。きざんでないタマネギはカレー味というよりも、タマネギ味そのものだったように記憶しています。

真夜中、のどの渇きに耐えかねて目が覚めました。私の動く気配で眠りを破られたのでしょうか。となりで横になっておられた尾崎先生も目を覚まされて、「夕食のカレーはいささか辛かったなあ」と言われました。水筒の水を分けてもらい、二口、三口飲んで再び眠ったようです。

小松原湿原では、みんなで手分けして記録をとることになりました。先生とペアを組んで、湿原に散在するツツジを中心とした灌木の小さな固まりを調べるわけです。各小集団ごとに混ざっている植物に違いも見られ、どのようにして記録を取って行けばいいのやら困惑したまま突っ立っていました。先生から、記録を取るまえにいくつかの固まりを観察してみようと言われました。そうすれば、これがこの湿原で最も典型的だという基準が出てくるし、そうなれば、それとの比較で記録がしやすいだろう、との判断です。あちこちと先生の後ろについて歩き回り、ようやくのことで、これを基準タイプにしよう決めました。その間、先生が木に登り額に片手をかざして湿原を見渡したりもしました。この様子を私のカメラのモノクロフィルムにおさめ、後日先生にお贈りする約束でしたが、この約束は今だにはたしておりません。大変申し訳なく思っています。

飯豊連峰や朝日連峰でも大変お世話になりました。朝日連峰の時は、案内状をよく読まないままに集合場所を間違えてしまい、集合時間に遅れて先生をはじめ皆様迷惑をかけてしまいました。佐瀨や朝日岳へのお誘いも結局無にしまい、今思うと心残りです。思い出していくと、迷惑をおかけしたなあとか、お世話になったなあといったことばかりが浮かんできます。

これからも御指導をよろしくお願いいたします。

(昭和60年3月25日消印)

お世話になって12年

柄 澤 朋 暢

個人的なことから書き出して恐縮だが、筆者はこの3月で30歳になった。そしてこうやって植物同好じねんじょ会の通信誌に稿を寄せているのだから植物の勉強を人生の糧としていることに間違いは無い。いつ頃から何故植物に